

1 今月のニュース

○西鉄研究会発足

本年の支部総会でご了解いただいていた「西鉄研究会」の設立について、7月26日の本部理事会でご承認をいただき、無事発足することとなりました。

西鉄部会は、平成19年の設立以来、西日本鉄道株式会社の広報室アーカイブ活用課担当次長の吉富実氏の指導のもと、西日本鉄道の所有する鉄道及びかつて存在した鉄道に係る会社の設立から、発展、そして今日までの状況について、研究を進めているところです。

現在、九州支部報の添付資料として毎月「福岡例会報」の西鉄だよりとして情報発信をしてきたほか、会員による撮影会等の行事を行い鉄道趣味の造詣を深めてきました。

しかしながら、鉄道趣味者の多くの方が抱える問題として、収集し、研究してきた資料の保全が問題とされてきました。西鉄に係る資料については、これまでは、顧問がアーカイブ活用課の資料として保全されてきたところです。

今般、顧問が定年を迎えられることとなり、西鉄部会の会員が所有している資料や写真の管理保存し、後世に伝えていくために管理保存していく組織が必要になってきました。また、現在の部会では九州支部の制約があり、動きやすい組織にすることも課題になってきました。

これらの課題に取り組むため、西鉄部会では、新しい組織である西鉄研究会を設立することとしました。また、本部直轄の研究会とすることで、全国の西鉄に関心のある趣味者を参集し裾野を広げ、組織的に資料や写真の保存管理も出来ていきます。また、九州の地域の趣味者に参加していただくことにより、他の地域の民鉄との比較や関連などこれまでより広い視点で、西鉄の研究も進めることができるという大きなメリットもあります。(西鉄研究会設立趣旨要約)

要領等については、追って本部から案内があると思います。趣旨にご賛同いただける方は、ご参加をご検討いただくよう期待しています。

これに伴い、九州支部西鉄部会は発展的に解消することとなりました。

また、平成11年10月に第1号を発行した「福岡例会報」について、支部報が定着していることや西鉄部会設立後は西鉄部会の情報発信のため発行してきたという経緯から、今回(No.179)をもって終了することとしました。発行以降つたない文章を読んでいただきありがとうございました。

なお、本年度は、福岡例会報発行に係る会費(月あたり4頁分)を支部会費として予めいただいておりますので、九州支部報でフォローしていくこととしています。以上、ご了解願います。

2 資料

今回は、福岡例会報の最終号として、「二つの資料」を紹介することとするにとしたい。特に、第1回支部報は、間もなく還暦を迎える「鉄道友の会九州支部」の誕生と先駆者の思いや当時の活動を知るうえで貴重な資料であると考え。なお、最初の行事が西鉄1000形試乗会を兼ねた二日市車庫の撮影会だったということは、今回発足する西鉄研究会との縁を考えられるものである。

(1) 九州支部報

支 部 報 1

1958.10.30 鉄道友の会 九州支部

1、九州支部の生い立ちと第1期事業報告

I 支部設立への動き (奈良崎担当)

九州地区にJRC九州支部を結成しようという動きは、既に1955年頃から有志の間に持ち上がっていたが、時期尚早の気配が強くなり暫く待たざるを得なかった。たまたま1956年秋に博多駅史が刊行された際に(九州支部の名称で資料提供)私たちの間で九州鉄道1号機の存在が問題となり、八幡製鉄での現車の状態次第によっては、保存運動を起こそうという気運が高まった。その運動方針を検討している時、にわかに支部問題がクローズアップされ、主題は保存運動から支部設立運動へと転換した。当時、鷹司氏が「あさかぜ」号試乗御來博され、帝国ホテルで奈良崎・竹島・谷口の三氏の間の懇談会で実現の方向を取るよう申し合わされた。次いで奈良崎氏1957年2月上旬、本部理事会の席上で同様な要望を受け、それを契機に愈々設立への第一歩を踏み出すことになり、同月福岡市にて発起人会

を招集した。当時地区在住の会員は23名で、出席者は7名に過ぎなかったが、終始なごやかに懇談し、また活発に論議し合って、九州支部設立の具体的方針を検討した。そこで発起人代表を設立準備委員会に切り替えて、土田・奈良崎・竹島・谷口の各氏が任に当たることになり、多大の障害もあったが（主として土田氏の御疾病による）延20回にわたる連絡や協議の結果、ようやく設立時期の見通しも一応6月30日（九州鉄道最後の日を記念）を目標とするところに漕ぎ着けたが、また都合により延期し、最終的には7月20日設立、記念行事まで翌日に亘る確定した。そこで会場・見学会・試乗会・寄付・新聞社などの交渉を行い、同時に招待状の発送を終えた。こうして準備万端整い、発会式を迎えた訳である。

II 支部発会式と記念行事（谷口担当）

私共鉄道ファンにとって、意義の深い御目出度い日であった7月20日の発会式。20～21日に亘った盛大な記念行事のあらまきは次の通りである。

1957年7月20日 発会式

福岡市国鉄つくし荘 12:40～14:20

出席者（招待） 博多駅長：小原氏 西鉄本社運転課長（代）内野氏

（本部） 山中・鷹司・高松・萩原・道明・各理事

（支部） 江上理事・池田善・久保・進藤・竹島・谷口・奈良崎・平崎・福元・藤野・古川・各会員（50音順） 計18名

発会式は先ず発起人の挨拶に続き乾杯、来賓祝辞に移った。九州支部長主任を予定していた土田氏の御病欠は大そう惜しかったが、来賓の多彩な顔ぶれで十分償えたと思える。各理事の御祝辞は会の運営上の問題や、ファンのあり方、内外の鉄道に関する話題など貴重な談話を盛り沢山に頂き、テーブルには宴の膳も揃えられて気分彩を添えた。更に当地区の江上理事よりも御祝辞を受け、併せて同氏の想出話として会場のこの室が過年の御結婚披露宴会場であったという極めて意義深い御話を伺ったのである。続いて小原・内野両氏の御祝辞もあり、今後友の会の発展に一層の支持を惜しまぬ旨の御言葉を頂いたのである。これより会員の自己紹介より色々発言もあり、高松・奈良崎氏のスライド映写を終わり、刻限となったので閉会とし玄関前にて記念撮影を行い、次の行程、第1日の見学試乗会に移ったのである。

尚、閉会に先立ち会員の募集を願い、取り敢えず規約の成立と第1期運営委員の選任を次のように決定した。

支部長 土田 運営委員 近藤・谷口・竹島（庶務担当）・奈良崎（会計担当）

従って発会にともなう記念行事以後運営委員会の業務となるので、細目は次章を参照して頂きたい。支部発会にともなう会計報告

1. 収入の部	本部会計より配付金	5,000円
	日本交通公社御寄付	5,000円
	西日本鉄道 御寄付	5,000円
	出席各理事 御寄付	3,400円
	当日会費	1,100円
	発起人負担	6,379円
	合計	25,879円

2. 支出の部	準備費（連絡・雑）	8,974円
	祝賀会費	6,630円
	西鉄見学会費	1,945円
	西鉄見学会費	2,390円
	諸経費	5,940円
	合計	25,879円

III 九州支部 第1期 事業（奈良崎担当）

1. 集会

1) 1957年7月20日 西鉄二日市車庫見学撮影会

新車1001系試乗

出席者 山中・鷹司・萩原・道明・高松・奈良崎・竹島・近藤・谷口・久保・平崎・藤野・福元・古川・池田善・（順不同） 15名

2) 1957年7月21日 西鉄北九州線試乗撮影会

出席者 鷹司・道明・竹島・奈良崎・池田和・池田善・柴尾・北川・古川・福元・藤野・平崎・久保・谷口・14名（中尾卯） 計15名

以上の行事は発会記念行事として行われたもので、特に盛況であった。

20日15時福岡発1005号にて出発、二日市にて313・601系の見学撮影を行い、17時福岡駅で解

散した。

21日 門司駅 11時集合、福岡勢は11時12分着「かもめ」号スロ54で来門。一同特急さちかぜ号処女列車(東京～博多)を見学。続いて階上特別室で昼食懇談会に移り、暫し歓談した。12時48分西鉄1010号に乗車、一路折尾に向う。この日西鉄の御好意でパスを頂いたので一同大張り切り、終電まで乗り回した猛者も居たそうである。14時黒崎車庫に至り、1001系連節車各種を見学撮影。15時黒崎駅前くるみ喫茶店にて小憩、記念行事の閉会に就いて理事・委員より挨拶を行い解散した。大多数の会員はこの後2015号で戸畑線經由小倉に向った。

3) 1957年10月1日 さちかぜ号 長崎延長運転試乗会

出席者 近藤・梅田・平崎・福元・中尾英・四郎丸・竹島・古川・藤田・山崎・奈良崎 11名
門鉄局の御好意で、全員往復2等の招待パスを頂き、任意の列車で長崎に集まり、10レ長崎～博多間を試乗しナハフ1111(1957.7.1日本車両製)車内で記念撮影、座談会を行った。

4) 1958年1月5日 新春座談会

出席者 古川・初答院・平崎・奈良崎・谷口 5名
13時より門司市片上町 谷口宅にて鉄道一般、58年の行事計画に就いて活発な討議を行った。

5) 1958年4月13日 花見並びに西鉄多々良車庫訪問

出席者 和田・池田和・山崎・古川・四郎丸・奈良崎・{眞武} 計7名
11～13時 香椎チューリップ花園にて昼食花見会、13:30～15時多々良車庫見学撮影。電機202号に添乗運転した。

6) 1958年8月24日 呉・宮島・広島地区見学会 懇親会

(第1回 阪神・中国・九州 三支部合同見学会 第1日目)

出席者 大塚・平崎・松本・中尾卯・四郎丸・奈良崎 6名

合同集会として、甚だ多彩な催しを行った。当日08:30～16時の間3コースに分かれて呉・宮島・広島付近の鉄道を見学。夜は広島職員会館で全員懇親会に参集、一泊した。

7) 1958年8月25日 日立笠戸工場見学会

(第1回 阪神・中国・九州 三支部合同見学会 第2日目)

出席者 古川・阿部・小田部・和田・梅田・大塚・平崎・中尾卯・四郎丸・奈良崎・谷口 11名

当日 前日広島泊の会員は405レで下松着。駅頭に三支部40数名勢ぞろい。13～15時日立工場にて組み立て中の「あさかぜ」新車群を見学し有益な一日を過ごした。16:30下松駅頭にて記念撮影を行い散会。今回の関係分の交渉一切は阪神・中国支部にお世話して頂いた。

2. PR活動

1) 写真掲示 博多駅及び北海道・阪神支部写真展に出品

2) Rail Fan 配布 西部支社・門鉄・博多駅・西鉄など

3) 会員獲得 発会時23名→第1期末41名

3. 会計報告

I 収入の部	還付金 (32.7- 32.9)	975 円
	還付金 (32.12-33.3)	2,160 円
	<u>支部会費 (26名分)</u>	<u>2,600 円</u>
	合 計	4,596 円
II 支出の部	通信連絡	3,794 円
	見学会写真	344 円
	<u>事務費</u>	<u>458 円</u>
	合 計	4,596 円
	差 引 残 金	1,139 円

IV 第2回 総会決定事項 その他

1958年9月23日 博多駅にて当日あさかぜ新車試乗会に先立ち総会を招集。第2期役員を選出と事務所の移転を決定した。

席上第1期委員より経過報告を行い、次いで議長に吉川氏を選出。出席会員の指名数量によって取り敢えず第2期委員4氏、相談役を3氏夫々下記のように決めた。

運営委員 大塚・谷口・奈良崎・古川

相談役 江上・近藤・高田

支部長 適任者を得ないため当分欠員とする。

新事務所については規約付則第4条の条文を次のように加えた。

付則改訂1回 4

付則1) 事務所 2) 連絡所の名称位置を次のように改訂し、1958年1月1日より施行する。

① 支部連絡所 小倉市 谷口 ② 福岡連絡所 福岡市 古川
よって付則1) 2) は1958年9月30日限り削除する。

(総会出席者) 石橋・大塚・小田部・四郎丸・竹島・奈良崎・中尾卯・古川・藤田・山崎・藤野・
菊池・初答院・柴尾・谷口・田村・平崎・福元・横山(近藤・江上)計21名

8) 1958年9月23日 特急あさかぜ号予備編成試乗見学会

総会に続き門鉄局並びに相談役各位の御配慮で、あさかぜ号デラックス客車 博多～小倉間
を試乗、道中各車両を詳しく見学し得た。

8226レ 博多14:15発 小倉15:41着 (通貨甲B)

(印刷擦れ似て前半編成分からず)・・・ナネ20-ナ 202-ナ 2052-ナネ 213-ナネ 202-マ 2052

支部報1

1958年10月30日発行

発行人 谷口

(2) 福岡例会報第1回(平成11年10月)

今月のニュース

○ JR九州

1 10月1日豊肥線熊本～肥後大津間電化工事完成、熊本・大分地区に815系を投入(文責:平田)

JR九州は、10月1日豊肥線熊本～肥後大津間電化工事完成に伴いダイヤ改正を実施した。この改正で毎時1本、特急「有明」が水前寺(1往復は肥後大津)まで乗り入れるほか、アルミ車体の815系新型通勤車編成両を熊本及び大分地区に投入した。これにより、豊肥線電化区間のほか、鹿児島線銀水～八代間、日豊線柳ヶ浦～佐伯間が原則815系による運転となり、ラッシュ時を除きワンマン化された。また、鹿児島の475系は一部の列車を除き八代以南の運転となる一方、大分の423系の定期運転が消滅した。

2 来春のダイヤ改正にあわせて、長崎線に新型特急車885系を投入(文責:平田)

JR九州は、来春3月のダイヤ改正にあわせて、博多～長崎間の特急「かもめ」に新型車両885系を投入する。885系は、カモメをイメージし、白を基調に黄色の線を引いたデザインで、アルミ合金車体とし軽量化する等により、所要時間を現在より10分程度短縮する。6両編成7本42両を新造する予定で、博多～長崎間を17往復させる計画である。製造費は76億円。(朝日新聞参照)

3 福岡地区の25駅に自動ゲートを設置(文責:平田)

JR九州は、今年度末までに福岡地区の25駅に自動改札機を設置する。機器は、最大3枚までの切符の投入が可能なもので、まず10月17日に南福岡駅に投入される。以降、設置の時期と設置される駅は、10月までに吉塚、周船寺、12月までに博多、筑前前原、今宿、下山門、来年1月までに東郷、香椎、箱崎、竹下、笹原、2～3月までに赤間、東福岡、福岡、千鳥、古賀、筑前新宮、九産大前、春日、大野城、水城、都府楼南、二日市、波多江の各駅としている。なお、来年度以降も導入し、福岡・北九州都市圏の全59駅に導入する予定。総投資額は50億円。福岡市営地下鉄との共通使用については検討中。(交通新聞参照)

○ 西鉄

西鉄平成11年度の鉄道関係投資(文責:平田)

西日本鉄道の平成11年度鉄軌道関係の投資は、大牟田線に4月に6000系中間車3両を新造したほか、年度内に6050系VVVF車3両を投入する。これにあわせて、1000系1編成が廃止されたほか、6050系の投入時にもう1編成が廃止されるものと思われる。また、柳川駅にLED表示装置を整備する。なお、花畑駅付近連続立体交差化事業は、今年度末までに営業線を本線西側の仮線に移し、来年度から引き続き本線高架橋の工事に取り掛かる。久留米市の側道整備等を含めた事業の完成は17年度の見込み。

○ 甘木鉄道

10月1日ダイヤ改正(文責:平田)

甘木鉄道は10月1日ダイヤ改正を行い、始発列車の運転時間を約20分早めるとともに、朝ラッシュ時の運転間隔を詰め、夜間を除きほぼ30分間隔の運転とした。これにより1日の運転本数は平日で34往復から35往復へ1往復の増となった。